



自主防災隊通信 春号

東日本大震災から12年が過ぎ、防災意識も徐々に薄れつつある今日この頃です。

しかし、その記憶を忘れず、そこで経験したことを次につなぎ、また、一人でもたくさんの命を助けるため、全国で防災の取り組みが行われています。過去のデータから、南海トラフ大地震は必ず来るとされています。実際その時が来た時に困らないようにしておこうというのが防災です。

そして、その防災は、自分を守るためのものであり、大事な家族を守るものです。

大切なものを守るために、個人個人が準備をしておくこと。それが一番の安心につながります。

そこで、今回の提案は「防災散歩」です。

「防災散歩をしてみよう」

1. 「防災散歩」って何？

防災という目的を持って散歩をします



2. 「防災散歩」のいいところ

- ① 自身の防災力を高めることができる
- ② いざというときに慌てることなく避難することができる
- ③ 家族と一緒に防災を考えられる
- ④ 実際にどのくらい歩くかがわかる（体力）



実際に歩くことで、災害発生時の避難場所・経路・危険なところを知っておこう

3. 防災散歩のやり方

① 自宅から避難所までのコース

自宅で被災し、避難所に逃げることを想定して行ってください

② 子どもの学校から、避難所までのコース

子どもが学校の帰り道に被災したことを想定し、避難所まで自力で逃げるができるように、ご家族で通学路の確認をしながら行って下さい

③ 職場から避難所までのコース

職場で被災し、車が使えなくなって、徒歩で避難所まで逃げることを想定して行って下さい

※ 乳幼児、車いすの方、高齢者等それぞれの事情を鑑み、各家庭で被災を想定し、避難所まで安全に逃げるための確認として「防災散歩」を行ってください



4. 「防災散歩」の準備

① コースが決まったら、まず、地図を準備し、避難所、避難ルートなどを確認しましょう

② 筆記用具、マーカー、付箋、カメラなどの準備をしてください。散歩中に気が付いたことを地図に書き込んでいきます

※非常持ち出し袋を背負っての「防災散歩」もあります



ベビーカーを押しながらの「防災散歩」

おばあちゃんも一緒の「防災散歩」



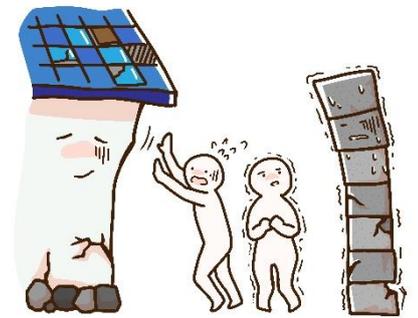
それぞれのケースで問題点を探し出してください

5. 「防災散歩」でチェックすること

① 避難所までの道に、危険なものはないか

普段歩きなれている道であっても、想定を災害時とするだけで、見えてくるものが違ってきます。いつもとは意識を変えて、散歩を行いましょう

- ・倒れそうなブロック塀はないか
- ・電信柱、看板など危険なものはないか
- ・固定されていない自動販売機はないか
- ・亀裂の入った道、路肩、側溝はないか
- ・大雨が降った時、水が流れ込んでこないか（高台でも坂道があれば危険です）
- ・崩れそうな崖、危険ながけ地はないか
- ・川は大丈夫か（橋が壊れていたら、別のルートが必要です）



② 役に立つものは何か？どこにあるか？

避難場所、コンビニ、病院、公園、
駐車場などの広い場所、
公衆電話、消火器、消火栓、
防火水槽、防災倉庫、
警察、消防署、協働センター、
スーパーマーケット、ガソリンスタンド、
ドラッグストア など



③ 災害が、夜間、雨の時なども想定して考えてみましょう

避難は昼間の明るい時間帯とは限りません。また、避難所に行けないときはどうするのか？

代替りの場所なども考えておく必要があります

また、季節によっては避難時の服装、持ち物なども変わります

6. 「防災マップ」を作ろう

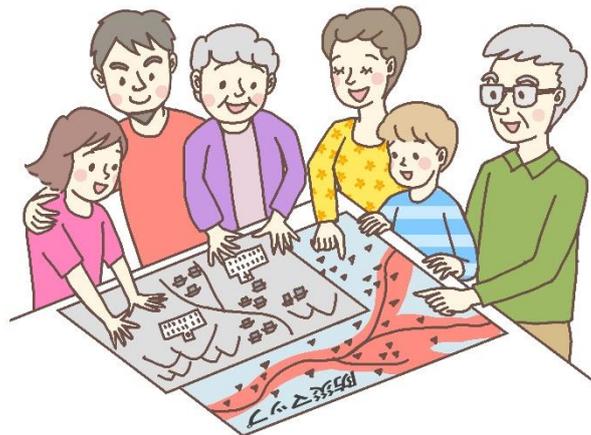
避難の時に役立つ「防災マップ」を作ってみましょう

- ① 実際に「防災散歩」をして、集めた情報、問題点をもう一度みんなで見直し、いざというときに、どうするのかを話し合しましょう
- ② 「防災散歩」で使った地図に、ハザードマップの情報を、さらに書き込み、オリジナルの防災マップを完成させましょう
 - ・ 危険個所に×印を、役に立つものの位置には○印をつけましょう
 - ・ 避難経路・う回路を書き込みましょう

古くなったブロック塀、狭い道、行き止まり、橋などは災害時に通行が不能・危険な場所になります

※ハザードマップは、浜松市ホームページの「ハザードマップ（浜松市防災マップ・津波浸水深マップ）」から確認することができます

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/bosai/bosai/map/index.html>



- ③ 作成した防災マップは定期的に見直して、災害に備えてください

編集後記

2023年春号では皆さんに「防災散歩」と、そのまとめとして、オリジナルの防災マップを作ることをご提案させていただきました。自主防災隊では、秋の防災訓練時には、避難訓練をおこなっていますが、実際の災害時には、みんなが揃って避難ができる保証はありません。今回、皆さんにやって頂いた「防災散歩」が、実際の災害時にご自分の、また大切な人の命を守るために役立つと信じています。



和合町自主防災隊 防災コーディネータ 松山美佐